

第3日目

報告書の作成について打合せ

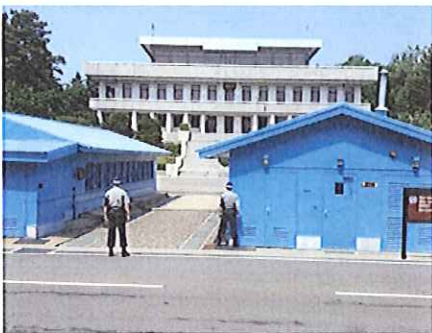
日 時 6月11日 9:30~11:00

所在地 セジョンホテル 会議室 (ソウル市中区忠武路2街61-3)

今回の韓国福祉施設視察事業の報告書の作成について話合いました。日本は社会事業家と言われる人々が、その地域のニーズを拾い上げ、支援していたことが、社会福祉法人の事業として国が制度化して行った経緯があり、制度としての社会福祉の色彩がみられるが、韓国の社会福祉は制度としての部分は残るものの地域ニーズに合致した社会福祉事業を進めていることを改めて認識した。行政への福祉事業の提言、実施のため社会福祉士が活躍する姿は、本来のこの資格者の仕事であることも考えさせられた等々、



参加者が、今回の視察事業で得たもの、感じたことを概ね話し合えたところで、報告書作成の確認をすることにした。まず報告について、前書きは荒井氏が担当し、第1日目松坡老人総合福祉館については稲田氏、上田氏、坂上氏、福森氏、松山氏が担当し福森氏が取りまとめることになる。第2日目午前の西大門総合社会福祉館は樋口氏、田中氏、直木氏、吉長氏、上村氏とし直木氏が取りまとめる。午後部の東明老人福祉センターについては相馬氏、竹田氏、三好氏、前田氏とし三好氏が取りまとめる。形式として施設概要、考察と感想を2,000文字程度で報告し写真も挿入する。各担当の原稿の締切は来月30日で、8月の施設長会で原稿修正後、韓国語の翻訳を依頼して、10月中に韓国社会福祉協議会、訪問先施設に送る予定とした。



打合せ後、板門店を見学する。北朝鮮と現在もなお休戦状態であることを再認識した。当時、北朝鮮軍に急襲された列車の残骸や同民族でありながら遮断された橋。米軍、韓国軍とふたつのゲートを越えての会談場所、突然の戦争状態に巻き込まれ命を落しても責任を問わないと記された書類に署名する緊張感は、平和に慣れた日本では経験できないものであった。

韓国社会福祉関係者との懇談会

18:00~20:00 景福宮 (ソウル市中区芋洞2街88-5)

韓国社会福祉協議会 全遇壹氏、韓国子供財団 劉淑昃氏、金康河氏、韓国メセナ協議会 張眞淑氏を招き「韓国と日本の福祉」をテーマに懇談会を開いた。韓国も日本以上の少子高齢化、都市化が進み、子どもへの虐待、離婚問題、高齢者介護問題等日本同様の課題が話し合われた。高学歴が、進む



ほどには豊かな生活につながらない社会情勢と所得格差が進む現在、家族全体へのケアが必要となっており、精神的なサポートも含め専門的ケアの重要性が共通の話題となった。韓国の長期老人療養保険制度の展望は、日本の介護保険制度の進展が参考になるとの話に、日本の関係者として大いに考えさせられた。